

韓国併合と辛亥革命

1 / 1

飛鳥

奈良

平安

鎌倉

室町

安土桃山

江戸

明治

大正

今日の問い

日本の韓国支配はどのように進み、同じころ中国ではどんな変化が起こったのだろう。

読み終えたら、最後の「問いへの答え」を見る前に、自分の言葉で答えてみよう。

1 韓国併合

植民地支配

韓国統監府

保護国とした韓国の外交などを日本が管理した役所。

韓国併合

1910年、日本が韓国を植民地にしたこと。

朝鮮総督府

韓国併合のあと、日本が朝鮮を統治した役所。

日露戦争後の1905年、日本は韓国の外交権をうばって保護国とし、翌年**韓国統監府**を置いた。初代統監は**伊藤博文**である。韓国の人々は、解散させられた韓国軍の兵士も加わった**義兵運動**などで激しく抵抗したが、日本は軍隊でおさえた。伊藤博文は1909年、韓国の独立運動家の**安重根**に暗殺された。

1910年、日本は韓国を併合して植民地とし(**韓国併合**)、国の名を朝鮮と改めて**朝鮮総督府**を置いた。総督には軍人が就き、武力を背景に統治した。学校では日本語や日本の歴史が教えられ、朝鮮の人々の民族の誇りは傷つけられた。土地の調査で土地を失い、日本や満州へ移り住む農民も多かった。日本国内では併合を祝う声が多かったが、歌人の石川啄木のように、併合を批判的にとらえる歌をよんだ人もいた。また日本は1906年に**南満州鉄道株式会社**(満鉄)をつくり、満州への進出を進めた。



2 辛亥革命と中華民国

孫文・三民主義

孫文

三民主義を唱え、清をたおす革命運動の中心となった人物。

辛亥革命

1911年に始まった、清をたおした革命。

中華民国

1912年に成立した、アジアで最初の共和国。

清では列強の進出が続き、国の力はおとろえていった。**孫文**は、民族の独立・民権の確立・民衆の生活の安定をめざす**三民主義**を唱え、清をたおす革命運動を進めた。孫文は日本にも滞在して支援を受け、1905年には東京で革命派の団体をまとめた。日本で学ぶ中国の留学生も多かった。

1911年、長江中流の武昌(今の武漢)で軍隊が反乱を起こすと、各地の省が次々と清からの独立を宣言した(**辛亥革命**)。翌1912年、南京で孫文を臨時大総統とする**中華民国**が成立した。アジアで最初の共和国である。まもなく**清**の皇帝は退位した。しかし実権は軍人の**袁世凱**にぎり、その後も政治は安定しなかった。同じ1912年、日本では明治天皇がなくなり、元号は大正に改められた。

問いへの答え

日露戦争後、日本は韓国を保護国として韓国統監府を置き、義兵運動などの抵抗を軍隊でおさえて、1910年に韓国併合を行った。朝鮮総督府による植民地支配のもとで、人々は土地や民族の誇りを傷つけられた。同じころ中国では、孫文の三民主義を背景に1911年に辛亥革命が起こり、翌年に中華民国が成立して清は滅んだ。

次は ノート で、下線に語句を書きながら確かめよう →

